

14. 貝津の火山灰層

地 域	諫早市貝津周辺
交 通	県営バス 貝津団地下車
地形図	諫早 (1/50,000), 諫早・諫早南部 (1/25,000)

新しく作られつつある西諫早ニュータウンの南部には、国鉄長崎本線と国道34号線が平行して東西に走っている。この国道ぞいに洪積層と考えられる火山灰層を主とする地層が点々と分布している。

関東ロームや、雲仙火山の東斜面の火山灰層とは比較にならないほど狭い分布であるが、国道ぞいなので目に付きやすい。最近宅地や、工場等の整地で多くの露頭ができています。

①においては国道の北側にも南側にも火山灰層が見られる。この諫早南西部一帯は古第三紀の諫早層群の地層が基盤となっているがこの付近では諫早層群上部の厚い砂岩よりなる毛屋層が分布している。①でも中粒砂岩の上に洪積層が不整合関係で乗ってくる。図2に見るように、この層の最下部は泥質層中に安山岩、玄武岩および砂岩の円れきを含んだれき層である。れき層の上部20cmぐらいは水を通しにくい灰色の粘土で、その境界部に褐鉄鉱の薄層がのっている。火山灰層はこの鉄さびのような褐鉄鉱の上に堆積しており、層厚1～2mで水分を含むと粘ばり気を生じる黄白色の火山灰層である。そしてこの火山灰層の上に、部分的にオレンジ色の軽石を含んだ淡オレンジ色の別の火山灰層が見られる。そしてこれらを固結度の低い砂層やれき質の砂層がおおっている。この砂層は斜層理をもつので水の流れがあったことを示している。①より南へのびた小高い高まりには工場団地が広がりつつあるが、その辺一帯は火山灰層のやわらかい土質の丘である。貝津・農林センター前のバス停②の脇

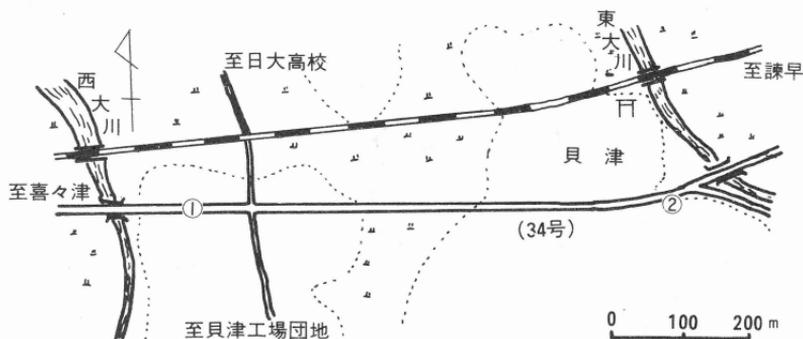


図1 貝津周辺ルートマップ

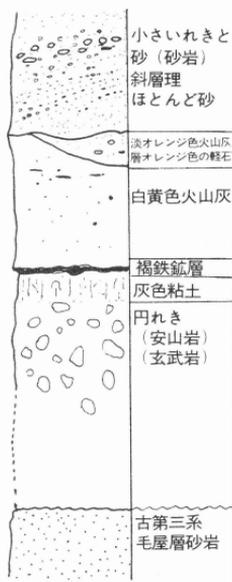


図2 貝津工場団地②の地層

に露頭がある。この露頭は部分的には粘土とシルトの薄層がよく成層して、一見ただけで湖成層であることがわかる。特徴的な灰色や茶灰色にチョコレート色の薄層が幾枚も重なり合っている。そして広葉樹類の木の葉の化石がたくさん出てくる。現在の植物とあまり変わらないようだが、くわしいことはわからない。この植物化石を含む地層は玄武岩・砂岩・安山岩などの円れき層の上に重なっていて、化石湖のあったことを物語っている。②の東約1kmにも含植物化石層が有るが、工場が建って採集はできなくなってしまった。

本地域の火山灰層と類似のものは島原半島北部一带にあるが、それとの直接の関係等はまだ調べられていない。交通の便も良いので観察調査には好都合である。しかし、宅地や工場建設が日々進んでいるため、近い将来この火山灰層も見られなくなるであろう。

(西村暉希)